

2019. 4. 29

畑 啓之

平成に起こった事故の数々、そのリスクは取り除けなかったか

平成の時代にも、不幸にして多くの事故が起こった。この中には、後から考えると、防げる事故も多く含まれていた。「原因を知ってしまえばナルホド」。でも、前もってそれに気づかない、あるいは、気づかないふりをしていたのが人である。

新しく始まる令和の時代に、不幸な事故を減らしていくには何が大切であるかを考えることは大切である。不可抗力的な事故も中にはあるが、事故には「人間の考え方や行動」が大きくかかわっている。そのことを意識でき、安全に対する事前行動がとれるようになることが不幸な事故を減らすことにつながる。

平成時代に起こった事故の一例（1989年~2019年）

1999年9月30日、東海村JCO臨界事故 - 茨城

2001年7月21日、明石花火大会歩道橋事故 - 兵庫

2005年4月25日、JR福知山線脱線事故 - 兵庫

2007年6月19日、渋谷温泉施設爆発事故 - 東京

2007年12月21日、三菱化学鹿島事業所エチレンプラント火災 - 茨城

2011年3月11日、福島第一原子力発電所事故 - 福島

2012年4月22日、三井化学岩国大竹工場爆発事故 - 山口

2012年9月29日、日本触媒姫路製造所爆発事故 - 兵庫

2012年12月2日、笹子トンネル天井板落下事故 - 山梨

2013年8月15日、福知山花火大会露店爆発事故 - 京都

2014年1月9日、三菱マテリアル四日市工場爆発事故 - 三重

2018年9月4日、関西国際空港連絡橋タンカー衝突事故 - 大阪

危険予知に関してはその代表的なものとして「ハインリッヒの300事故」がある。これは、事故が330件起こると、その中の300件は軽度なもの、29件は重度なもの、そして1件は死亡事故で、軽度な事故の芽をつぶしていけば、大きな事故に至る可能性を下げている、というものです。このほかにも、リスクを低減させる方法としては種々の方法がありますが、リスク低減の考え方を理解し、それを実施に移していくのは人であるということです。

書籍「リスク、不確実性、そして想定外」からの抜き出しです。

リスク管理にインセンティブがない理由

1. リスクを考えると不安になる。それよりももっと前向きなことを考えたい。
2. リスクの非対称性 リスクが現実のものとならなかったとき、リスクを管理するその行為そのものへの評価が引きくなる。※JR 福知山線脱線事故や福島第一原子力発電所事故がこれに当たると考えられます。
3. リスク管理を行うことはリスクをとらないことであり、リターンも得られないといった誤った考え方。

「身内の組織」であるが故の失敗

1. トップはかつては自分の上司であり、ものが言いづらい。
2. 会社は運命共同体であり、不都合な真実に対しても「見て見ぬふり」「不作為」を決め込みがちである。※不作為とは消極的行為を言う。近年、自動車会社による検査不正が多く報告されているが、そのために事故が起こる可能性もある。
3. 中の論理や常識と、外の論理や常識が違うことが起きやすい。※企業風土

なぜリーダーは危機を予見できなかったのか

1. トップにはものが言えない。
2. 見て見ぬふり。
3. 組織の内外の認識ギャップ。

リスクと不確実性と想定外の3つに共通することは、いずれも将来、すなわちまだ確定していないものに関するということ。

1. 将来のことについては、謙虚でなければなりません。
2. 「気づき」を大切にしなければなりません。
3. 木を見ず森を見ること。

失敗学は、起きてしまった失敗をポジティブに活かすための学問 見たくないものは見えない。 ※ハインリッヒの 300 事故にあるように、軽度な事故を防止する努力が大きな事故を防ぐ。職場では同じ事故が繰り返し起こる。また、他の職場でも同様の事故が起こる可能性が高い。自職場で起こった事故を他職場にも、その原因を交えて紹介する水平展開は事故低減に有効である。

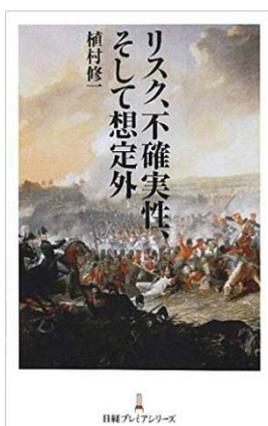
リスクをとらないことは最大のリスクである。

「不確実性」は確率で計測できない。確率によって計測できるものをリスク、計測できないものを不確実性と呼ぶ。※福島第一原子力発電所事故の原因となった大津波は確率項目ですから、この事故はリスクを取らなかったために起こったと考えて良いでしょう。

自分の立場を悪くしてでも強い決意を示すことによって、好ましい結果を狙う行動を、経済学では「コミットメント」と呼んで、重要な概念としています。※コミットメントとは、約束。誓約。公約。確約。経済的用語というよりも経営学的用語か。

「想定外」が起こる理由

思い込み、希望的観測、思考停止、想像力の不足。※上で示した多くの事故がこの範疇に入るのではないのでしょうか。「想定外」と言いつつも、事故が起こってしまえば「ナルホド」となるのが事故の本質です。



目次

- 第1章 リスクを測れるから人類なのだ
- 第2章 リスクの源はどこにある
- 第3章 リスクをコントロールできるか
- 第4章 不確実性の下での意思決定
- 第5章 「想定外」は誰のせい？
- 第6章 会社を取り巻くリスクの本質
- 第7章 リスク管理はなぜ失敗するのか
- 終章 大事なものを守る

内容紹介 (Amazon)

災害、事故、電車遅延……。誰もがいつもリスクに直面しているが、それがどんなものかを理解する人は少ない。日常生活のトラブル、歴史の事件、テレビドラマなど多様な事例からリスクの本質と付き合い方を平易に説明する。